

家庭学習の手引き(保護者用)

丹波市立西小学校

家庭学習は、①学校で学習したことをしっかりと身に付けるため、②自ら学ぶ習慣を身に付けるためにとっても重要なものです。小学生の間に「机に向かう習慣」を確立することが、後々の学力向上に大きな影響を与えます。「自ら学ぶ習慣」や「基礎基本の定着」については、学校も日々努力しているところですが、家庭での支援なくしては達成できません。この『家庭学習の手引き』を参考にいただき、子どもたちの確かで豊かな伸びを支えていただきますよう、よろしくお願いいたします。

◎学年の目標&勉強時間のめやす

低学年(1・2年生) 「基本的な家庭学習の習慣をつける」 20~30分

中学年(3・4年生) 「自分から進んで家庭学習をやりとげる」 30~45分

高学年(5・6年生) 「自分に必要な学習を考え、主体的な学びを進める」 45~60分

◎具体的な進め方



○基本的な生活習慣

お子さんが学校や家庭での学習に意欲的に取り組めるようにするためには、“早寝・早起き・朝ごはん”や“あいさつ”など、基本的な生活習慣の確立が不可欠です。ご家庭での声かけ・ご支援をよろしくお願いいたします。

○環境づくり

お子さんが落ち着いて学習できるよう、家庭学習をする場所をお子さんと話し合い、決められた場所で学習に取り組むことが大切です。テレビをつけたままや音楽をかけたままで学習をしても効果は期待できません。テレビやゲーム、インターネットについて、約束をつくることも大切です。

○学習時間の確保

社会体育や習い事などでお忙しいご家庭もあるかと思いますが、“机に向かう時間”を確保する必要があります。各学年の学習時間の目標は、「学年×10分」です。はじめはその通りできなくても、目標を持ってねばり強く取り組むことが大切です。

○見届け・励まし

お子さんの学習後、「したこと」に対する声かけ(褒める・励ます・アドバイス)をお願いいたします。やり切ったことをまずは褒めていただくことで、次への意欲が出ます。家庭での学習が定着してきましたら、学習の中身に目を通して、どのように取り組んでいるか把握していただきたいと思えます。(とくに低学年での丁寧なかかわりは、後に学習の自立につながります。)

○読書

読書は「心の栄養」と言われ、豊かな心を育むだけでなく、思考力や想像力、表現力の基礎を養います。また、読み聞かせをしたり、親子で読書を楽しむ日をつくったりして、大人も読書に親しむ姿を見せることにより、子どもたちにとって読書が身近に感じられることでしょう。

○学校との連携

学習や生活の様子で、お子さんが「頑張っている点」や「悩んでいる点」などを連絡帳等で担任に教えて下さい。家庭と学校が連携することで、やる気や自信も伸ばすことができます。